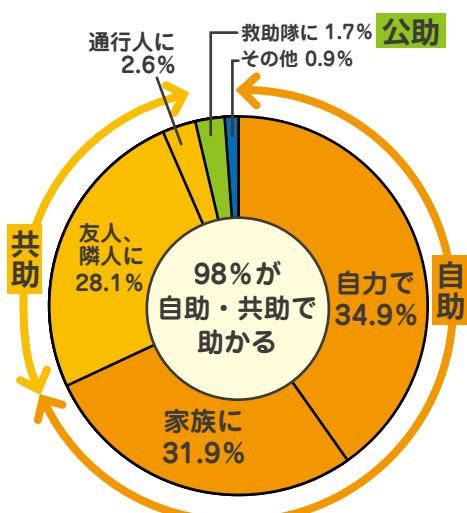


第4章

地域での防災活動に参加しましよう

●自助・共助が命を救う！

阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助された人の98%が自助と共助で助けられました。一方、公的機関によって生存したまま救出された人はわずか1.7%という記録が残っています。



（社）日本火災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より



災害被害を軽減するには、これらの連携が重要です。

自助：自分（家族）の命を自分（家族）で守ること

共助：地域の皆さんで互いに助け合うこと

公助：国や市の行政機関が対策を行うこと

あなたの持っている力を活かそう

町内には、いろいろな技術や道具を持った人、まちのことを熟知している人など様々な人たちがいます。災害時には、そういった技術や道具や知恵などが役に立ちます。あなたもきっと何かの力があるはずです。いざという時にできることをご近所で話し合っておきましょう。また、ジャッキ、バーナー、フォークリフト、リヤカーや建設機械などを持っている事業所が近所にあれば、災害時に提供してもらえるよう事前に働きかけましょう。



＜労力や時間を提供＞

在宅被災者・避難所・地域での作業で、清掃・運搬・配給・炊き出しなどの労力の提供



何かできる
ことはない
かしら。

＜物資や資機材の提供＞

救援物資、救助・復旧用資機材の提供



建設業を
やっています。
協力させて
頂きます。

＜場所を提供＞

一時避難場所、ボランティア休息所、物資倉庫、駐車場などの提供



＜技術や知恵を提供＞

専門知識、資機材の使い方など、ノウハウの提供



特殊車両
免許もって
ます。

看護師
です。

＜情報通信ができる＞

インターネットなど、必要な情報のやりとり



掲示板を
作りま
しょう。

＜その他＞

レクリエーションの指導、子どもの世話など



気分転換
して元気にな
りま
しょう。